

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3140463号
(U3140463)

(45) 発行日 平成20年3月27日 (2008. 3. 27)

(24) 登録日 平成20年3月5日 (2008. 3. 5)

(51) Int.Cl.

G 0 9 F 3 / 0 0 (2006. 01)

F 1

G 0 9 F 3 / 0 0

G

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-114 (U2008-114)
(22) 出願日 平成20年1月11日 (2008. 1. 11)(73) 実用新案権者 591110078
株式会社新盛インダストリーズ
東京都北区堀船4丁目12番15号
(72) 考案者 斎藤 豊
東京都北区堀船4丁目12番15号 株式
会社新盛インダストリーズ内

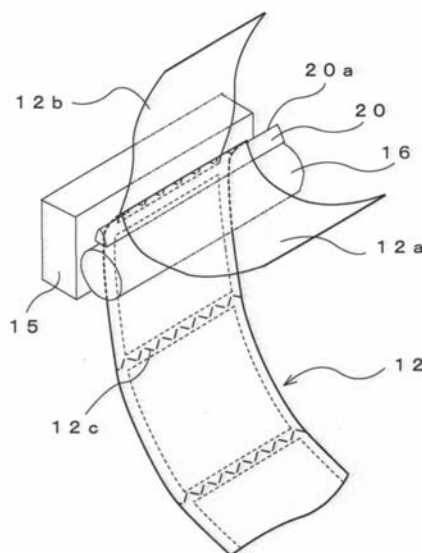
(54) 【考案の名称】 ラベル用台紙

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 帯状の台紙に一定間隔をおいてラベルが仮着されたラベル記録紙を剥離発行させる場合に、安定してラベルを発行することができるラベル用台紙を提供する。

【解決手段】 ラベル用台紙 12 a は、ジグザグに形成されたミシン目 12 c によってそれぞれのラベル用台紙 12 a が接続されているので、ミシン目 12 c から容易にそれぞれのラベル用台紙 12 a を引き裂くことができるようになっている。一方、ラベル記録紙 12 を剥離発行させる場合は、ミシン目 12 c が剥離バーの頂部 20 a に達しても、ミシン目 12 c はジグザグに形成されているので、ミシン目 12 c が鋭角に直線状に形成された剥離バーの頂部 20 a に引っかかるおそれがなく、印字ズレを生ずるおそれがない。

【選択図】 図 2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

帯状の台紙に一定間隔をおいてラベルが仮着されたラベル記録紙において、前記帯状の台紙は、ミシン目で接続されるとともに、該ミシン目はジグザグに形成されていることを特徴とするラベル用台紙。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、帯状の台紙にラベルが仮着されたラベル記録紙を剥離発行させるときに、安定してラベルを発行することができるラベル用台紙に関する。

10

【背景技術】**【0002】**

従来、帯状の台紙にラベルが仮着されたラベル記録紙は、ミシン目によって帯状の台紙が接続され、それぞれの台紙に粘着剤を介してラベルが仮着されている。このような台紙のミシン目は、印字方向と直交する方向に直線状に形成されている。また、ミシン目によって接続されたそれぞれの台紙に、ミシン目に平行に伸びるスリットによって2分割されたラベルが仮着されたラベル記録紙が知られている。

【特許文献 1】特開 2000 - 62277 号公報**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】**

20

【0003】

通常、帯状の台紙にラベルが仮着されたラベル記録紙をプリンタで印字させる場合には、印字後にラベルが台紙に仮着されたまま発行される通常発行と、印字後にラベルが台紙と剥離されて発行される剥離発行とが選択されて使用できるようになっている。ここで、剥離発行を行う場合には、剥離バーによって台紙だけが鋭角に折り曲げられることによって、ラベルと台紙が剥離されて、それぞれ発行されるようになっている。

【0004】

しかしながら、特許文献 1 に記載の台紙をプリンタで剥離発行させると、剥離された台紙のミシン目がちょうど剥離バーの頂部の位置に達すると、台紙のミシン目の方向と剥離バーの頂部の方向とが同じ方向になるため、台紙が剥離バーの頂部に引っかかるおそれがある。そうすると、ラベルが安定して発行されないため、ラベルに印字ずれが生ずるとい

30

【0005】

本考案は、上記事案に鑑みて成されたもので、帯状の台紙に一定間隔をおいてラベルが仮着されたラベル記録紙を剥離発行させる場合に、安定してラベルを発行することができるラベル用台紙を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記の課題を解決するために請求項 1 に記載のラベル用台紙は、帯状の台紙に一定間隔をおいてラベルが仮着されたラベル記録紙において、前記帯状の台紙は、ミシン目で接続され

40

【考案の効果】**【0007】**

請求項 1 に係るラベル用台紙は、帯状の台紙に一定間隔をおいてラベルが仮着されたラベル記録紙において、前記帯状の台紙は、ミシン目で接続されるとともに、該ミシン目はジグザグに形成されているので、ラベル記録紙を剥離発行するとき、ミシン目が剥離バーの頂部の位置に達した状態になっても、ジグザグに形成されたミシン目が剥離バーの頂部に引っかかるおそれがないので、ラベルも安定して発行され、印字手段による印字ズレが生ずるおそれがない。

【考案を実施するための最良の形態】

50

【 0 0 0 8 】

以下に図面を参照して本考案の好ましい実施の形態について説明する。本実施の形態は、外部機器としてのハンディターミナルから無線通信によって通信コマンドを受信してラベルに印字させるモバイルプリンタを使用して、ラベル記録紙が剥離発行された場合について説明する。

【 0 0 0 9 】

図 1 は、本考案の実施の形態に係るラベル記録紙が剥離発行されたときの断面図である。図 1 において、モバイルプリンタ 1 は、主としてプリンタ本体 2 と、プリンタ本体 2 の後端に設けられた枢軸（図示なし）回りに回動自在に枢着されたプリンタカバー 3 とで構成されている。このプリンタカバー 3 の上面には、剥離フレーム 5 が一端をプリンタカバー 3 に対して回動自在に設けられている。また、剥離フレーム 5 には、左右に対向するように解除レバー 6 a , 6 b が設けられ、それぞれの解除レバー 6 a , 6 b はそれぞれモバイルプリンタ 1 の中央に向かって若干スライドする機構となっている。この解除レバー 6 a , 6 b をモバイルプリンタ 1 の中央に向かってスライドさせると、解除レバー 6 a , 6 b がプリンタカバー 3 から解除されて、剥離フレーム 5 の一端回りに剥離フレーム 5 がプリンタカバー 3 に対して回動するようになっている。

【 0 0 1 0 】

剥離フレーム 5 の前後のプリンタカバー 3 の上面には、それぞれラベル用台紙発行口 8 とラベル発行口 9 とが開口している。また、プリンタカバー 3 の回動端には、プリンタカバー 3 とともに回動する覗き窓 7 が設けられ、この覗き窓 7 によって後述するラベル記録紙 1 2 の収納状況を確認することができる。一方、モバイルプリンタ 1 は、プリンタ本体 2 とプリンタカバー 3 との間に形成された空間にラベル記録紙 1 2 を収納することができる収納部 1 3 を有している。

【 0 0 1 1 】

図 1 のようにプリンタカバー 3 が閉じられた状態にあると、サーマルヘッド 1 5 に対向するようにプラテン 1 6 がプリンタカバー 3 に設けられ、プリンタカバー 3 とともに回動されるようになっている。このプラテン 1 6 の一端には、伝達装置を介してステッピングモータ（図示なし）によってプラテン 1 6 が回転駆動される。また、サーマルヘッド 1 5 の後面にはサーマルヘッド押さえ 1 8 がコイルバネ 1 9 によってサーマルヘッド 1 5 を押圧することによって、サーマルヘッド 1 5 がプラテン 1 6 に弾接されている。一方、プリンタ本体 2 の底板には、バッテリーを収納するバッテリーフレーム 1 4 が形成され、このバッテリーフレーム 1 4 にサーマルヘッド 1 5 の下端が回動自在に枢着されている。

【 0 0 1 2 】

プラテン 1 6 の上側には、若干の隙間を空けて剥離バー 2 0 がプリンタカバー 3 に設けられ、図 1 のようにプリンタカバー 3 と共に剥離フレーム 5 が閉じられた状態にあると、剥離フレーム 5 の下端の剥離ローラ 1 7 がプラテン 1 6 に弾接されるように剥離フレーム 5 に配設されている。したがって、プラテン 1 6 が回転駆動されると剥離ローラ 1 7 も従動され回転される。ここで、剥離手段は、剥離バー 2 0 と剥離ローラ 1 7 とで構成されている。また、剥離バー 2 0 は、このような形状に限定されるものでなく、鋭角を有する形状であれば任意な形状とすることができる。

【 0 0 1 3 】

印字手段は、サーマルヘッド 1 5 とプラテン 1 6 との間にラベル記録紙 1 2 を挟持した状態で、制御信号がサーマルヘッド 1 5 に供給されることによって構成されている。この状態で、印字手段によりラベル 1 2 b が印字されながら、プラテン 1 6 がステッピングモータ（図示なし）によって回転駆動されてラベル記録紙 1 2 が移送される。

【 0 0 1 4 】

図 2 は、ラベル記録紙が剥離発行されたときの要部斜視図である。ラベル記録紙 1 2 は、ラベル用台紙 1 2 a に一定間隔をおいてラベル 1 2 b が粘着剤を介して仮着された状態で巻回されている。又、ラベル用台紙 1 2 a は、ジグザグに形成されたミシン目 1 2 c によってそれぞれのラベル用台紙 1 2 a が接続されているので、ミシン目 1 2 c から容易に

それぞれのラベル用台紙 1 2 a を引き裂くことができるようになっている。一方、ラベル 1 2 b は、ラベル記録紙 1 2 からカス取りされて形成されているので、それぞれのラベル用台紙 1 2 a の大きさより若干小さくなっている。

【 0 0 1 5 】

次に、ラベル記録紙の剥離発行について説明する。最初のラベル 1 2 b を剥離させたラベル用台紙 1 2 a を、剥離バー 2 0 の鋭角を有している剥離バーの頂部 2 0 a で鋭角に折り曲げられるように剥離ローラ 1 7 とプラテン 1 6 に挟持させて装着した状態で印字手段により印字させる。すると、印字されたラベル 1 2 b は、腰が強いので剥離バー 2 0 で鋭角に折り曲げられることなくラベル用台紙 1 2 a から剥離されて発行口 9 から発行される。一方、ラベル用台紙 1 2 a は、ミシン目 1 2 c が剥離バーの頂部 2 0 a を通過しながら鋭角に折り曲げられて発行口 8 から排出される。図 1 および図 2 は、最初のラベル用台紙 1 2 a を取り除いた状態を示している。

10

【 0 0 1 6 】

ラベル用台紙 1 2 a が剥離発行される場合に、ミシン目 1 2 c が剥離バーの頂部 2 0 a に達しても、ミシン目 1 2 c はジグザグに形成されているので、ミシン目 1 2 c が鋭角にしかも直線状に形成された剥離バーの頂部 2 0 a に引っかかるおそれがない。したがって、ラベル 1 2 b は安定して印字されて発行することができ、印字ズレを生ずるおそれがない。

【 0 0 1 7 】

本実施の形態では、ミシン目 1 2 c がジグザグに形成された場合について説明してあるが、これに限定されることなく、ミシン目 1 2 c が、剥離バーの頂部 2 0 a に達したときに、剥離バーの頂部 2 0 a と重ならないように任意の形状とすることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 8 】

【図 1】本考案の実施の形態に係るラベル記録紙が剥離発行されたときの断面図である。

【図 2】ラベル記録紙が剥離発行されたときの要部斜視図である。

【符号の説明】

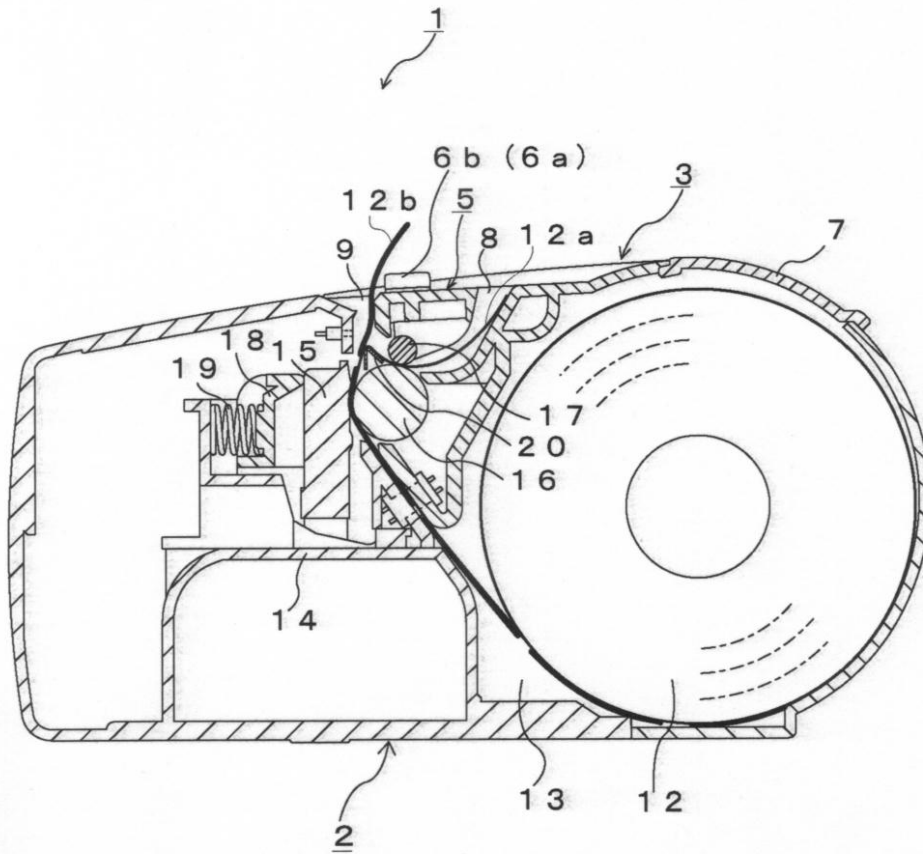
【 0 0 1 9 】

- 1 モバイルプリンタ
- 2 プリンタ本体
- 3 プリンタカバー
- 5 剥離フレーム
- 6 a , 6 b 解除レバー
- 7 覗き窓
- 8 ラベル用台紙発行口
- 9 ラベル発行口
- 1 2 ラベル記録紙
- 1 2 a ラベル用台紙
- 1 2 b ラベル
- 1 2 c ミシン目
- 1 3 収納部
- 1 4 バッテリーフレーム
- 1 5 サーマルヘッド
- 1 6 プラテン
- 1 7 剥離ローラ
- 1 8 サーマルヘッド押さえ
- 1 9 コイルバネ
- 2 0 剥離バー
- 2 0 a 剥離バーの頂部

30

40

【図 1】



【図 2】

